

事務事業名		大船渡湾水環境保全計画推進協議会開催事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業						
政策体系	政策名	012 豊かさが実感できる都市環境づくり			事業期間		予算科目						
	施策名	015 環境の保全と共生					会計	款	項	目	事業		
	基本事業名	012 港湾・河川環境の保全					01	04	01	03	11		
根拠法令													
所属	部課名	生活福祉部市民生活環境課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 H12 年度～) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入								
	係名	環境衛生係	電話内線	124									
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)							全体計画 (※期間限定複数年度のみ)						
大船渡湾の水質浄化のため、市民、事業者、行政が一体となった水質浄化対策を進める「大船渡湾水環境保全計画」及び保全計画の具体的実行計画として平成16年度に策定した「大船渡湾水環境保全計画アクションプラン」における市、県及び関係機関が実施する水質浄化関連事業の進行管理を行うため、協議会を開催する。主な業務は、①委員の委嘱、②水質浄化関連事業の進捗、データ収集、とりまとめ、③会議 (庁内の推進本部会議、全体の協議会) 開催のための資料作成、④会議の開催、⑤議事録の作成、送付、⑥委員への報酬支払い。事業費は、委員報酬および費用弁償として支出される。							総投入量 (千円)	事業費 内訳	国庫支出金				
									都道府県支出金				
									地方債				
									その他				
									一般財源				
									事業費計 (A)		0		
人件費	正規職員従事人数					人件費							
	延べ業務時間					人件費計 (B)		0					
	人件費計 (B)					トータルコスト(A)+(B)		0					

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段 (主な活動)		名称 単位	
前年度実績 (前年度に行った主な活動)		ア 協議会開催回数 回	
協議会開催 (6/8、11/20)		イ 推進本部会議開催回数 回	
協議会に諮る資料について協議する水環境保全計画推進本部会議開催 (5/28)		ウ	
今年度計画 (今年度に計画している主な活動)		(6) 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
協議会開催 (2回予定)		名称 単位	
推進本部会議開催 (1回予定)		カ 水質改善施策総事業数 事業	
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		キ アクションプラン重点施策数 施策	
市、県及び関係機関が実施する大船渡湾の水質改善関連事業		ク 協議会委員数 人	
大船渡湾水環境保全計画推進協議会委員		(7) 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		名称 単位	
大船渡湾の水質改善関連事業について、進捗を管理し、意見をもらう。		サ 協議会からの意見・提言数 件	
④ 結果 (基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		シ アクションプラン重点施策良好評価の割合 %	
環境負荷を軽減し、公共用水域の水質を保全する。		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円	202	103	202	88	194	125	
		事業費計 (A)	千 円	202	103	202	88	194	125	
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	4	4	4	4	
		延べ業務時間	時 間	480	480	480	480	480	480	
		人件費計 (B)	千 円	1,920	1,920	1,920	1,920	1,920	1,920	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	2,122	2,023	2,122	2,008	2,114	2,045	
⑤活動指標	ア	回	2	1	2	1	2	1		
	イ	回	1	1	1	1	1	1		
	ウ									
⑥対象指標	カ	事業	104	109	107	104	109	101		
	キ	施策	23	23	23	23	23	23		
	ク	人	30	30	30	30	30	30		
⑦成果指標	サ	件	0	2	3	3	0	5		
	シ	%	87	87.5	71.8	-	87	87		
	ス									

事務事業ID	0075	事務事業名	大船渡湾水環境保全計画推進協議会開催事業
--------	------	-------	----------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

大船渡湾の水質保全を目指して平成元年度に策定された大船渡湾水質管理計画に基づき水質保全施策を進めてきたが、水質改善傾向が見られなかったこと等の理由から、新たな水質管理計画として平成12年度に県（大船渡保健所）と合同で大船渡湾水環境保全計画を策定。

② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

大船渡湾の水質については、目立った改善傾向は見られないが、ここ数年は湾口部（湾口防波堤外）においてCODの環境基準値を満たす結果となっている。また、平成16年度には、水環境保全計画の具体的行動計画として、大船渡湾水環境保全計画アクションプランを策定。水質値以外に、重点施策ごとの目標値を掲げ、水質改善に係る施策を進めている。

③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

水環境保全計画そのものに対する意見ではないが、永浜・山口地区埋立事業の際の県と漁業者との約束事項とされていた浚渫事業の実施について、地元漁業者から約束どおりの実施を求める意見が事あるごとに出されている。しかし県では、大規模事業評価により浚渫事業は実施しないということになっており、現在は埋立用材確保のための部分的浚渫が行われるにとどまっている。

2 評価の部（SEE）＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）
	⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 事業の内容が一部の受益者に偏っていない不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 大船渡湾水質の環境基準については、CODの湾奥と湾央で依然として環境基準達成には至っていないが、推進本部会議及び協議会を開催し、水質保全施策についての議論が深められたため、全般的に適切であったといえる。																					
① 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
② 有効性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
③ 効率性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 水質の評価は、単年度の数値変化では図りきれず、長期的推移でもって評価しなければならないため、当面現行の体制で進めつつ、水質推移をみて当該計画の今後を考えるべきである。 現行の計画について、平成22年度までが事業期間とされていたことから、次期計画の策定に向けて、県に対して要望を行っていく必要がある。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者 市民生活環境課長

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | |
|---------|---|
| ① 目的妥当性 | ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり |
-

(3) 評価結果の根拠と理由

全体的な総括がなされており、適切な事務執行がなされている。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)
-

(上記方向性に対する具体的な内容)

水質の評価は、単年度の数値変化では判断はできず、推移を見ながら評価しなければならない。また、東日本大震災により大船渡湾の水質が大きく変化していることから、こうした状況や今後の推移も踏まえながら、水質浄化対策を検討していく必要があり、当面現行の体制で進めていく。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項